

私立大学図書館協会 2008 年度第 4 回国際図書館協力委員会議事要録

日 時：2008 年 12 月 19 日（金）15:00～16:15

場 所：東京経済大学 6 号館 7 F 小会議室

出席者：風間茂彦（慶應義塾大学）、新田晶平（大阪学院大学）、深川晃而（同志社大学）
三浦治（帝京大学）、丸本操（東京経済大学）
〔事務局〕 関達朗（東京経済大学）

欠席者：飼沼敏雄（名城大学）

配付資料

- (1) 2008 年度海外派遣研修修了証（コピー）
- (2) 2008 年度海外集合研修
 - ・行程表（最終版）
 - ・見学先への質問事項
 - ・見学先への質問事項（編集・縮小版）
 - ・韓国国際交流文化院への礼状
- (3) 2008 年度第 2 回寄贈資料搬送事業実施状況一覧
- (4) 2008 年度支援企業一覧
- (5) 寄贈資料搬送事業実施の経緯

報告事項

1．2008 年度海外派遣研修について

- ・モータンソンセンターより委員長宛の修了証が届いており、これにより今年度派遣研修は終了した旨、事務局より報告があった。（資料 1）

2．2008 年度海外集合研修について

- ・見学先については、一部当初の予定から変更を余儀なくされたが（韓国教育學術情報院 南山市立図書館）、全体のスケジュールについては問題なく進行し、懸念されていた通訳についても特にトラブルなく無事全行程を終了し、全員帰国済みである旨、事務局より報告があった。（資料 2 - 1～4）
- ・帰国後、一部の参加者から、宿泊等に関する意見が提出されている旨、事務局より報告があったことを受け、委員の中から、今回の研修についての意見、感想を参加者全員から集めた方がよいのではないかとの意見が出され、事務局としてアンケートをとることとした。

3．2008 年度第 2 回寄贈資料搬送事業について

- ・年度内のできるだけ早いうちに処理を済ませるため、今回の委員会を待たず、メールによる委員への確認のみで採択案件を決定し、現在 2 校から搬送作業が終了したとの連絡を受けている旨、事務局より報告があった。（資料 3）
- ・また、実施業者につき、前回同様 JCC には一部（1 件）のみ委託し、3 件は別業

者（郵便局）で実施することとした結果、およそ10万円程度予算が残る旨、事務局より報告があった。

4．国際図書館協力基金について

- ・資料4に基づき、現在までに9社110万円の入金があった旨、事務局より報告があった。
- ・あと数社は入金が見込めるはずであるとの見解が委員長より示された。

5．2009年度海外派遣研修について

- ・次年度については、応募がなかったため派遣研修は実施しない旨、事務局より報告があった。
- ・応募がなかった際には、参加者を指名して実施した例があったとの前任校の発言を受けて、1件打診はしたが断られた旨、委員長より補足された。
- ・派遣研修を実施した場合は、協会HPに報告書が掲載されるが、実施しなかった場合は何も広報されないことになるので、次年度は実施されない旨をHP上で案内しておくべきではないかとの意見が委員より出され、事務局で掲載の形式を検討することとした。

審議事項

1．次期委員会への引継ぎについて

各事業についての次期委員会への引継ぎ内容について、下記のように審議を行った。

寄贈資料搬送事業

- ・資料5に基づき、昨年度より始めたJCC以外の業者による搬送実施について事務局より説明があり、引継ぎの方法について審議したところ、下記のような意見が出され、現在のやり方と現委員会の考え方を、そのまま次期委員会に伝え、判断は次期に任せるということで了承された。

- 協会の事業として考えた場合、予算の執行についてはよく検討する必要がある、複数業者による価格の比較もないままの1社丸投げ状態は好ましくない。
- JCCからは例年基金への協力が多大であるため、関係が薄れた場合に、この収入が見込めなくなるのは無視できないのではないか。
- 価格面および作業の進捗の早さの点では、JCC以外の業者（主に郵便局）で実施する方がメリットは大きい。

海外派遣研修

- ・事務局から報告されたように、2009年度に関しては応募がなく、モーテンソンセンターとの契約を含め実施を見送ることとしたが、その大きな原因のひとつとして、申請時期が3ヶ月早まったことが考えられ、次年度以降も同様であれば、応募がない事態が続くことも予想されるため、今後の派遣研修のありかたについて

審議を行った。

- ・モータンソンセンターでの研修の継続を基本としておくことは必要であり、そのため、2009年度は契約しないが、次年度以降は再開する可能性がある旨を明確に伝えておく必要があることが委員長より確認された。
- ・あわせて、今回同様モータンソンセンターでの研修に応募がなかった場合に備えて、別途長期研修の企画を検討する必要もある旨、委員長より見解が示され、その一案として、今年度集合研修の企画検討の初期に打診を行ったピッツバーグ大学は有力候補であるとの提示があった。
- ・上記の提案に特に異議はなく、このような現委員会の考え方および企画素案をそのまま次期委員会に伝え、判断は次期に任せるということでした承された。

海外集合研修

- ・集合研修に関しては、毎年度企画を立てなければならないものなので、今年度実施した韓国図書館見学および、でも挙げたピッツバーグ大学を候補として次期委員会に引き継いでおけば、実現の可能性は高いであろうとの見解が委員長より示され、そのように引き継ぐということでした承された。

シンポジウム

- ・シンポジウムについては、今年度は開催しなかったが、集合研修でコネクションのできた韓国図書館関係者を招聘して開催するという企画は実現の可能性が高いであろうとの見解が委員長より示され、そのように引き継ぐということでした承された。

2. 次回委員会（最終）について

- ・次回委員会（最終）については、2月26日（木）同志社大学で会場をお借りして開催する予定とした。

以 上